



気配り (三献の茶)

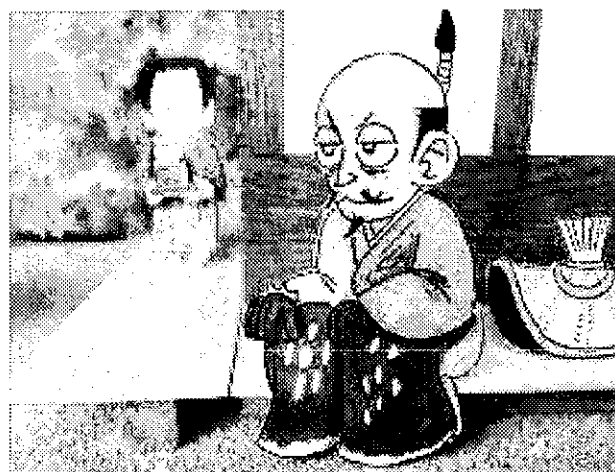
10月1日全校朝会 校長講話より

「三献の茶」というと、歴史を好きな方やちょっとご年配の方はご存じだろうと思います。豊臣秀吉と石田三成の話です。お若い方のために概略をお話します。

長浜城主となった羽柴秀吉が、鷹狩の途中に観音寺（米原市朝日町）へ立ち寄る。秀吉は「のどが渴いたので茶を一杯所望したい。」と寺の小姓に頼む。汗をかいた様子の秀吉を見た寺小姓の少年は、大きな茶碗にぬるいお茶を注いで持ってきた。

秀吉が「さらにもう一杯。」と言うと、小姓は先ほどよりも熱いお茶を茶碗の半分ぐらいに入れて持ってきた。「なかなか、おもしろい小僧だ。」と思った秀吉は「さらにもう一杯。」と頼む。小姓は、上等の小さな茶碗にさらに熱いお茶を少し入れ、お茶の味が楽しめるようにして持ってきた。

このことがあって、この小姓、石田三成は秀吉に召し抱えられたという話である。



この話が事実であるかどうかは定かではありません。この逸話の出典は江戸時代中期に書かれた「武将感状記」だと言われます。司馬遼太郎氏の著書「関ヶ原」にもこの話は登場し、司馬氏の子どものころには学校で学んだと書いてありました。（司馬遼太郎自身、史実として扱っているのではない。）

事実かどうかは別として、少なくともこの時代の人々は、このような「気遣い」を美德として語り、後生に語り継いできたものだと考えられます。

さて、朝会での私の講話のテーマは、今回「気遣いができる人になろう」です。まず、「気」とはこの場合「心」であること、「気遣い」とはちょっとした親切であることを話し、この「三献のお茶」に入りました。

少し時代背景や「鷹狩」が当時のスポーツのようなものであることを確認し、「秀吉にお茶を頼まれたら、みんなはどんなお茶を出すかな？」

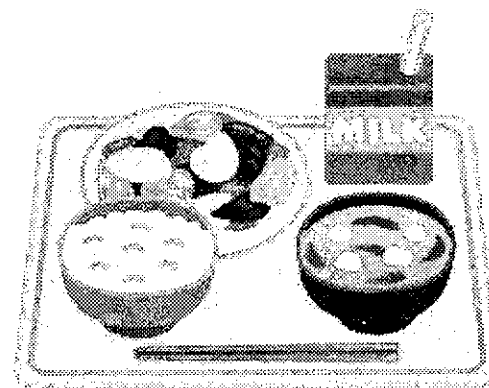
「①つめたい水 ②冷たいお茶 ③熱いお茶」とクイズ形式にしてみました。さすがに水はありませんでしたが、冷たいお茶と熱いお茶に分かれました。冷たいお茶は想像できるように「暑い日でのどが渴いているから。」という理由。熱いお茶に手を挙げた子は、「そのころは冷蔵庫がない。」「喉が渴いたときは熱いものの方がいい。」など。

「量はどれくらい出しますか？」

「①茶碗いっぱい ②茶碗八分目 ③茶碗半分ぐらい」

という感じでこの「三献のお茶」の話を進めていきます。そして、子どもたちにも、この話は秀吉や三成が亡くなってずいぶん後の江戸時代に書かれた本に載っている話なので事実かどうかはわからないこと、しかし、このような話が江戸時代から残っているということは昔の人々はこのような「気遣い」を素晴らしいものとして考えていたことを伝えました。さらには加えたのは次のようなことです。

「困っている人に優しい言葉をかけたり、親切にしたりすることも大切な優しさだけど、ほんのちょっとした『気遣い』ができるって素晴らしいことなんです。」「例えば、給食を配膳するときこそっと置くこと、左にご飯を右に汁物やおかずを置くことだって、左手でお茶碗を握りやすくする『気遣い』、友だちにプリントを配るときだって方向を考慮することや席の後ろの人に回すときに『どうぞ』と声をかけること、これだってちょっとした『気遣い』なんです。」そして、今週宿泊学習に出発する5年生、月末に修学旅行に行く6年生は、いろいろなところに「気遣い」の場があることを伝えました。



大人だって「気遣い」の素晴らしい人もいれば、デリカシーのない人もいます。「気」はつかい過ぎると疲れますし、へんに「気」をつかわせる人間にもなりたくないものだと思います。しかし、さりとした「気遣い」のできる人は立ち居振る舞いも素敵で、美しく見えるものです。子どもたちにも今からちょっとした「気遣い」を身につけて欲しいと思っています。

「天高く馬肥ゆる秋」にみんなで遠足！



あんなに暑かった夏もようやく過ぎ去り、秋の気配がしっかりと感じられる季節になりました。9月28日(金)は、1～4年生で前期遠足に行きました。この時期5年生は宿泊学習、6年生は修学旅行があるため、残りの4年生以下の恒例行事となっています。まずは、体育館で縦割り班の顔合わせとミニゲーム。今回は4年生がリーダーです。風船落

としというゲームをした後は、赤浜公園に向けて出発。若者交流センターから目的地の赤浜公園までは、縦割り班でウォークラリーを行いながら進みます。コースの所々にチェックポイントがあり、クイズや指令があります。例えば、「全員で今月の歌を歌ってください。うまければ5点。(審査はポイント担当の先生)」「20秒内で近くにあるドングリを拾ってください。拾った数が点数。」といった感じです。そのチームをまとめるのがリーダーの4年生。「秋の自然を味わうこと」「縦割りの絆を深めること」「4年生のリーダー性を培うこと」をねらいとしています。

みんなをリードしてくれた4年生の感想をいくつか紹介します。



橋本 結衣

【感想】

ウォークラリーで下級生たちが楽しくしていたのでよかったですと思いました。「歌えバンバン」を歌うとき(上の指令です)、みんな声が大きくて上手だったことが心に残りました。だめなところはちゃんと言って、下級生をまとめられたからよかったです。前期遠足でチームの絆を深められたところががんばったことです。1位にならなかったけど、問題をとくときにみんなでといて行けてよかったです。

【高まった力、身についた力】

下級生をまとめる力 みんなで楽しくできる力
チームのきずなを深める力 協力し合う力

高橋 徳臣

【感想】

顔合わせのときに風船落としをしたときに2回戦あって、2回戦とも勝ちました。それは、4人が力を合わせてがんばったからだと思います。ウォークラリーでは、クイズをとくときにびみょうは答え方もあったので、むずかしかったです。くやしいので小値賀のもの知りになれるように、歴史の本を読んでいきたいです。そして、小値賀クイズのときに全問正解になるようがんばりたいです。

【高まった力、身についた力】

つなげる力・つながる力がもつともつと高まりました。
1・2・3年生ともつと仲良くなった気がします。

小崎 羽香奈

【感想】

前期リーダーとしてちゃんとできるか不安でした。みんなで支え合ってきたので最後までちゃんとできました。前期遠足の前の夜楽しみにしていました。それから、きんちょうが止まらなくて、みんなを支えることができるかどうかプレッシャーがかかりました。でも、副リーダーの芽生さんが支えてくれたので楽しく前期遠足ができました。

【高まった力、身についた力】

下級生を支える力 みんなを助ける力

中野 友稀

【感想】

ぼくが最後の前期遠足で心に残ったことは、ウォークラリーです。歩いてすぐかい斗君が足がいたいと言って、とちゅうで4人でウォークラリーをしました。「歌えバンバン」を歌うときみんな元気に歌っていました。写真を撮るときみんな笑顔だったのでうれしかったです。ぼくは、今年で前期遠足を卒業します。来年の4年生にやってほしいことがあります。笑顔でやさしく下級生を引っぱってほしいです。この前期遠足は最高の思い出になりました。

【高まった力、身についた力】

決める力(みんなの意見をまとめられた)

